

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議 事務局長 芝 忠
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F
TEL045-633-5142 FAX045-633-5194
Email: zan25564@nifty.com http://www.kanagawa-iguren.com

神奈川異グ連の海外プロジェクト

芝 忠

JICA（ジャイカ：独立行政法人国際協力機構）との関係が発展しています。アルメニアへの第1次調査団（異グ連から松本理事・加藤事務局次長の2名を派遣）が無事に帰国しました。6月5日から17日までの13日間の日程で現地の支援機関や中小企業の現場を調査しました。本年11月にも実施する日本での研修に反映させる計画です。アルメニアへの研修企画書は、これまでの異グ連交流人脈を活用した内容となっています。

また急にグルジアへの支援も同時発足になりそうです。当初はアルメニアが5年計画、続いてグルジアが5年計画の、合計10年というスパンを内示されました。しかし本年始まったばかりのアルメニアに続いてグルジアまでが急浮上しているのは国際情勢の変化を感じます。いわゆるテロ対策上の貧困国を無くすという大命題だけでなく、日本などの国連常任理事国入りを目指している国への支持を取り付けるという狙いもあるように思います。アフリカ諸国に対する賛同工作にODA支援策も活用されていると報道されているからです。しかし私達はイデオロギーに関係なく、日本における中小企業振興政策の経験や理論化が、発展途上国に役立つならば大いに貢献すべきでしょう。同時に1国の中小企業政策について、必ずしも日本の経験がそのまま役立つとは限らないでしょう。そういう意味では私達も学ぶところが沢山ある筈です。

さて7月末にJICA本部（新宿）に行き、内部の勉強会で「異業種交流」の講義をしてきました。経済開発部中心ですが、本年から月1～2回の自主勉強会を開始したそうです。私は3回目だそうです。1時間程の講義の後、1時間の質疑応答を行いました。皆さん大変熱心で、海外で異業種交流の話を聞くことが最近多いが、肝心の日本国内での情報不足ということでした。35年前に大阪から発生した異業種グループの流れが技術交流プラザや融合化法、さらに創造法や今回の中小企業新法へ至った経緯や、神奈川県での大規模な事業化プロジェクト方式の成果、アジア各国の取組について話してきました。

社会開発部の方から、近々、来日予定のカザフスタン政府職員の研修に協力してくれるよう頼まれ、早速、8月4日神奈川異グ連への訪問ということになりました。同部では日本センターというのを東南アジアと中央アジアに設置し、人材育成を行っているということです。複数国でのJICA事業を束ねたもののような感じです。いずれにしても、JICA横浜の県内支援機関の調査をきっかけとして、本部も異グ連活動に関心を持っていただき、感謝しております。今後も中小企業支援策について共同して勉強会でも開けると良いと思います。JICAプロジェクトを契機として異グ連の海外交流プロジェクトの再編を行い、国際化全般を掌握する態勢を検討したいと考えています。

了

アルメニアプロジェクト主担当、加藤BCからの特別寄稿「アルメニア共和国紹介」を3面4面に載せています！！

産学官交流サロンのコーナー

8月25日よこはまサロン

防災特集

「崖崩れ危険地帯データベース」
横浜国立大学工学部 砂土原教授
「命のポータルサイト」
早稲田商店会エコ 藤村事業部長
日時：8月25日（木）18:00～
場所：横浜エクセレントⅢビル9F
参加費：1000円
問い合わせ・申し込み：
かながわ異グ連 045-633-5142
横浜サロン事務局 045-651-8883
同上 fax 045-212-5547

8月29日かわさきサロン

安心ハウスと地域福祉活動

「グループホーム」建設構想
(財)生涯学習開発 安藤コチ他
「通所介護、地域介護」の現状
(株)グッドライフ 小嶋施設長
日時：8月29日（月）18:00～
場所：(株)カエスト 西棟3F310
参加費：1000円
問い合わせ・申し込み：
かながわ異グ連 045-633-5142
同上 fax 045-633-5194

よこすかサロン第9回

7月27日、観光ボランティアの中林千明氏から「わが町・横須賀再発見」と題して、スケッチと地図作りの現物を示しながらスピーチいただいた。横須賀の町を自転車で路地裏まで探索し、スケッチ（水彩画）と地図作りで、よそには見られない横須賀の良さを伝えつづけておられる。絵を書いているときに3～5倍の生きがいを感じ、生涯学習の目的で横須賀を横須賀で描きつづけるといふ「生涯青春」の行きかたを披露された。サロン次回は9月予定。

かながわ異グ連主なプロジェクトの状況

オールディーズ・シニア・クラブ

「青い羽根」街頭募金を昨年に続き実施！

小林BC

7月18日(月)は「海の日」でした。この日は海の恩恵に感謝すると共に、海洋国家日本の繁栄を願うものですが、つい先日にはタンカー同士の衝突事故や海水浴の死亡事故など不幸な海難事故が発生しています。そのたびに、海上保安庁は救難に活躍していますが、救助費用は山の場合のような遭難者負担の原則と異なり、救助側の負担とのことです。これは、互助精神という海の男の心意気によるものと聞いておりますが、時には燃料費もままならない状況もあるようです。

この様な経済事情に少しでも援助できないかと、当クラブは「青い羽根募金」のボランティア活動を行っており、例年、「海の日」にJR桜木町駅前広場で街頭募金を実施しております。

今回はクラブ会員15名と海上保安庁職員3名が集まり、午前10時30分から約1時間半猛暑の中で声をからしての奮戦でした。お蔭様で、約53千円の募金が集まり、職員の方に手渡しました。「青い羽根募金」のPR不足もあったと思いますが、「みなとみらい」方向に素通りする人々が大半で、日本人の心に潤いがないような実感がして一抹の寂しさを味わいました。ただ、募金者には中学生以下の子供さんやその家族が多く、少ない小遣いの財布(たまたま垣間見た)から1円玉を募金箱に入れてくれたり、事情を分かってくれた中年男性が千円札を拠出してくれたこともあって、新鮮な気持ちになることもありました。とにかく色々な意味で、暑い1日でした。

日韓ビジネス協議会

高橋BC

第56回・日韓ビジネス協議会は7月27日(水)に開催しました。(出席者は20名)

- 1、韓国企業・会社紹介及び製品説明(監視カメラ等): ユニモテクノロジー(株) 日本東京支店 和田耕二氏
- 2、(財)川崎産業振興財団について: 川崎市中小企業サポートセンター サブM 河辺吉義氏
- 3、韓国情報・その他: (財)韓国貿易協会 東京支部長 金在淑氏
- 4、講演「2005年度版中小企業白書について」: 会長(JASPA 取締役) 瀧澤 清氏

次回第57回日韓ビジネス協議会開催予定は下記の通りです。

- 株式会社高井精器の工場見学と暑気払い会を行ないます。
 1. 日時: 8月31日(水) 午後2時 JR藤沢駅改札口集合
 2. 場所: 株式会社高井精器
 3. 会費: 1,000円

関心ある企業の参加を歓迎致します。参加時には必ず事務局の高橋まで連絡して下さい。

tel:045-311-0094 MAIL: mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

高機能環境舗装プロジェクト 織方BC

3年連続で産総研での「神奈川県産学公交流研究発表会」に参加する予定です。

本プロジェクトは、3年目に入った一次製品としての新舗装材(超硬度・透水性・保水性)の産学公連携による事業化事例として、さらにこれからの二次製品(応用製品)の展望を発表する予定です。

<情報提供>

内藤泰春科学技術財団の助成金募集のご案内

千田BC

例年のとおり、今年も財団の助成金募集が開始されましたのでご案内いたします。この財団は、機械商社【株式会社ないとう】の創業者が私財を提供し、中小企業やベンチャー、個人などの科学技術研究開発に対し助成金を提供する目的で設立されました。<http://www.naito-zaidan.or.jp/index.html>

<助成金は以下の2種類です>

- 1、調査・研究開発助成金: 科学技術に関する調査や研究開発一件につき200万円まで。
- 2、国際交流助成金: 国際研究集会の開催や参加にたいし、一件50万円まで

応募締め切りはいずれも本年11月10日。助成金は来年度に交付されます。返済の必要はありません。以上いずれも応募資格は中小企業の経営者、その技術者など。応募方法、応募用紙は財団のHPにあります。

応募方法には一般公募と推薦があります。 神奈川中小企業センターのビジネスコーディネータの千田(senda@ibss.jp)は推薦者ですので推薦が必要な方はご連絡下さい。なお推薦案件の締め切りは11月1日(火)とさせていただきます。なお応募用紙などは異グ連事務局にもあります。

まんてんプロジェクト

千田BC (JASPA社長)

まんてんグループは7月15日に今年度初めての全体会合を開き、事業推進を本格的に行うための新体制および新たな会員規約などを決定した。これは昨年度一年間をかけて議論し、経験した事実を集約したものであり、まんてんグループが開発したビジネスモデルの新発足である。次頁にその内容を紹介します。

●まんてんの新体制

①規約の設定：会員や会の運営方法などを【まんてんプロジェクト会則】として明文化し、会の目的、会員、役員、理事会等を定義し明確にした。また会員の権利義務、資格、JASPA と会員の関係、会員の免責事項などを新たに【まんてんプロジェクト会員規約】として明文化した。この中で会費を今年度入会会員から年会費制（12000円）に変更した。従来の会員については、今年度に限り、経過措置を講じる。

②新役員：新規の会則に則り会長、理事を選出した。会長は滝澤氏が再任された。新理事メンバーとして、新井、山口、松浦の諸氏が選任された。また事務局長には愛氏が就任した。

●JASPA

大手システムメーカーからの宇宙用機器の製作は、JASPA の品質保証により、まんてん会員企業11社が水平分業による製造をスタートした。部品総点数は50余。JASPA は製造完了後の表面処理、組み立ておよび最終的な品質保証を行う。完成は本年9月末の予定。

その他の受発注案件については、製造依頼が8月2日現在決定したもの2件、交渉中が5件あり、まんてんグループの仕事が増加している。また、大手メーカーから3次元測定器を使った継続的な測定業務請負についての引き合いがあり交渉している。これがまとまれば、非常に大型の継続的な事業となり得るものである。

三浦海洋深層水を楽しむ会

八幡理事

第2回海洋深層水全国フォーラムが、7月23日（土）三浦市「うらり」で開催され、当楽しむ会は全員総動員で協力を行いました。フォーラムは北は北海道から南は沖縄と300名近くが参加いたしました。その要旨を紹介いたします。皆様のご意見をお待ちしたい。

- 1、韓国では国策研究開発基盤である「海洋深層水研究センター」が今年5月に竣工し、京東大学校に海洋深層水学科が設けられた。
- 2、北海道のような狭い市場に3箇所もの取水が必要なのか。
- 3、全国では16ヶ所取り水しているが、用途開発は2～3ヶ所を除いて特徴が無く、情報を欲しがっている。
- 4、海洋深層水とは何か、国民への正しい啓蒙が必要である。
- 5、各地の参加者から、「三浦深層水を楽しむ会」の存在に興味をもたれ、自分たちの所にもこのような支援・協力団体がほしいと羨望された。

特別寄稿

アルメニア共和国紹介

加藤BC

位置：アルメニア共和国は、1991年のソ連邦の崩壊で独立した共和国である。本来1918年にはアルメニア共和国として一度独立したが、1920年にソ連邦下に入った歴史もあるが、1991年ソ連邦の崩壊とともに独立して現在に至っている。このために民族に関する問題も生じている。コーカサス地方（地中海と黒海に挟まれたコーカサス山脈の南側に位置するグルジア、アルメニア、アゼルバイジャンの3カ国）にある。5000年の歴史のある国。

緯度的には、日本の仙台と青森の間に位置するが夏は非常に暑く、40℃くらいになるが乾燥しておりしのぎやすい。冬は2～3メートルの積雪がある。

国土と人口：面積は、29800平方キロメートルで36554平方キロメートルの九州より小さく、18790平方キロメートルの四国より大きい面積を有する国である。人口は、約334万人ほどで、九州の1480万人、四国の414万人よりも少ない。しかし、アルメニアにはディアスポラ（ダヤスポラ）といわれるアルメニアに住んでいないアルメニア人、アルメニア系の人たちが500万人ほどおり、全世界では800万人といわれている。アルメニア本国にいるアルメニア人よりも海外にいるアルメニア人の方が多いという珍しい国でもある。海外へ出稼ぎに出ている人たちディアスポラは、高等教育を受けた知識人が多い。ロシアやアメリカ、ヨーロッパに多くすんでおり、大企業の経営者もおり、市場経済に向かうアルメニアに対して投資することを始めつつある。現在のアルメニアの月収は、US\$100以下と言われるが、生活レベルは低いようには見えない。ディアスポラからの仕送りがアルメニア人の生活を支えているとも言われている。

人口構成は、アルメニア人、93%、ロシア人2%、クルド人2%である。クルド人はユディディ（YEZIDI）といわれキリスト教系の系統である。教育には熱心で義務教育は、10年又は11年である。識字率は、99%と高い。

言語：言語はインドヨーロッパ系のアルメニアングループと言われる。アルファベットに相当する文字は39文字で、英語の26文字よりも多い。しかし、ヨーロッパの言語に近いものではなく、独立した系統にある。

歴史・文化・宗教：アルメニアは歴史的にも長く、かつては現在のトルコ領を越えて地中海まで領土であった。紀元前2600年には、ノアの箱舟がアララト山に漂着したといわれる。アララト山は現在トルコ領になっているがアルメニアの非常に広い範囲から見る事ができ、アルメニアのシンボリック的存在となっている。アララト山は、

大きい山（5130m）と富士山に似た小さな山（3300m）があるが大きいほうがノアの箱舟が漂着したほうのアララト山である。今でも遺跡の発掘グループが定期的にその研究を行い、木材の破片などが発見されるといわれる。エジプトの歴史書にもアルメニアの名前は出てくる。現在の首都エレバン（YEREVAN）は、紀元前782年にはEREBUNIと言われ、その歴史は2787年を越える。そのためアルメニアの年齢は2787歳と表現される。紀元前95年には、ティグラン2世大王が大アルメニア王国を築いたといわれ、ティグランの名前を子供に命名することが今も受け継がれている。エレバンには、楔形文字で書かれたKARMIR BLOOR（赤岩）が残されている。人類発生の地（CRADLE OF CIVILIZATION）とも言われる。

文化は、ギリシャ文化に近い。アルメニアのいたるところにキリスト教の教会と十字石が見られる。旧ソ連邦時代、キリスト旧教会は、特別保護もされなかったが破壊もされなかった。現時古い教会が修理されて回復しつつある。アルメニアの宗派は、歴史が長く、イスラエルの市内にはキリスト教、イスラム教、ユダヤ教とともにアルメニア地区（Armenian Quarter）が残されている。西暦301年に世界で始めてキリスト教国を宣言したことで有名である。アルメニアはキリスト教徒がほとんどであるが周辺のトルコ、アゼルバイジャン、イランともにイスラム教徒が多く、イスラム教国に囲まれている。

産業について：GDPの比率でその構成を見ると全体の約22.5%が農業である。工業が約19%、サービス業が約40%、建設業が約10%となっている。産業分野では、金属加工機械、鋳物加工機械、測定器、モーター、トラック、タイヤ、ニット産業、絹織物、靴製造、化学、IT（ソフトウェア）開発、食料品加工、エネルギーなどである。輸出産業は、2003年の実績では、ベルギーへ18%、英国へ16.5%、イスラエルへ15.6%、ロシアへ12%、イランへ8.7%、USAへ6.2%、ドイツへ4.9%である。これで全体の約80%を越えており、日本へはほとんど輸出されていない。

輸入は、ロシアから、11.6%、ベルギー11.6%、イスラエル11.4%、USA9.5%、イラン8.8%、ドイツ6.7%、UAE5.4%、イタリア4.7%、ウクライナ4.6%などで日本からの輸入もほとんどない。銅、錫、金などの鉱山もあった。飲料関係ではブランデー、ワイン、ビールなどである。ダイヤモンド加工や宝石工場がある。

産物：ブランデー（コニャック）ワイン 有限会社アララトジャパンが輸入販売している。

アプリコット（果物）、野菜（なすび）のジュースや缶詰など。民族楽器(DUDUK) 杏の木で作った楽器もある。

隣国との関係

<アゼルバイジャン>アルメニアの東隣にアゼルバイジャンがある。ここにアルメニア人が多く住むカラバフナゴルノ地域があり、これが「カラバフナゴルノ問題」となっている。アゼルバイジャンの領域の中にアルメニア人が多く住んでいる地域があり、ここに住む民族アルメニア系住民が自治共和国を目指して独立を要求しているがアゼルバイジャンが許可していない。

これらの地域は、1910年代にソ連政権に抵抗していたが編入された歴史がある。ソ連邦傘下にある間は、同じソ連邦傘下で特に問題にならなかったが、ソ連邦が崩壊して独立する際にアルメニア人がアゼルバイジャンに含まれるのを拒否したのが発端である。アルメニア人はキリスト教、アゼルバイジャン人はイスラム教で民族的に対立がある。この地区の住民の80%ほどがアルメニア人であったが、アゼルバイジャン人はこのナゴルノカラバフ域外に逃れている。ナゴルノは「山が多い」、カラバフは「黒土のぶどう」という意味であるという。逆にアルメニアの南側にアゼルバイジャン領域があり、アゼルバイジャンの飛び地となっている。従って、アルメニアの東側山麓地帯と南側は、紛争地域となっており、危険地帯といわれる。

<トルコ>アルメニアの西隣はトルコである。トルコとはジェノサイド問題があり国交は開かれていない。アルメニア大虐殺ジェノサイドは、今から90年前にオスマントルコ帝国がアナトリア半島の東部に住むアルメニア人の大虐殺を開始した。犠牲になったアルメニア人は150万人とも200万人とも言われている。（アルメニア政府の公式発表は150万人という）

2005年4月24日アルメニアのジェノサイド記念碑において「アルメニア大虐殺」90周年を記念して犠牲者への追悼式が行われた。トルコはこの大虐殺を認めていない。この経緯もあり、アルメニア人は、トルコ人を許していないとされ、国交を持っていない。

<グルジア>最も良い関係を保っているのは、北に位置するグルジアである。従って、海に面していないために国外に出るためには、良好な関係にあるグルジアの方を経由しなければならない。陸路での貿易は、ほとんどがグルジア経由である。しかし、これを見越してグルジアは、通過する物資に対して税金を貸しており、これもアルメニアにとって貿易のひとつの障害になっている。

以上